

古文書と共に(四)

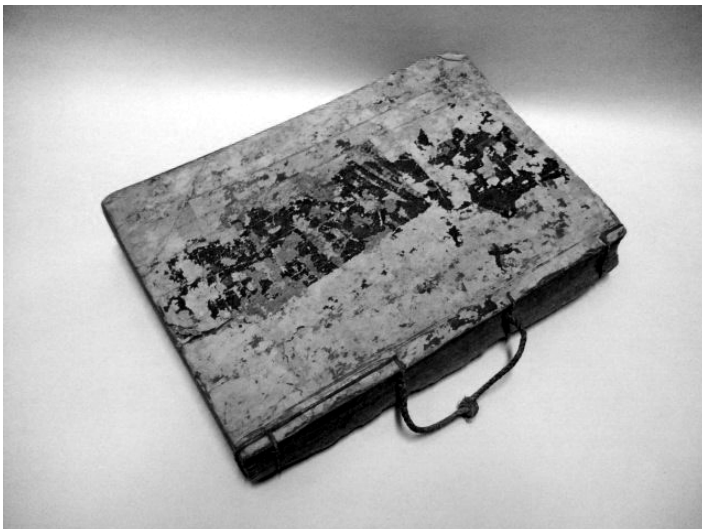
古書市で古い掛軸を買った。晴川院法眼養信と落款があるの
で調べてみると狩野養信という木挽町家狩野派九代目の絵師の
作であることが分かった。養信は「おさのぶ」と読ませるが元々
は「たけのぶ」で將軍家齊に長男が生まれ竹千代と名付けられ
たので「たけ」の音が同じでは失礼であるとして、そのとき「お
さ」に改めたのであった。ここでふと気がついたのは手元にあ
る公儀触書の写の中にこれに関した触れがあったのである。

今度御公儀御誕生之若君様、奉称 竹千代様と候二付、御家
中之面々、竹之字付候名、早々相改候様、可被致候(以下略)
これは文化十年十月、御目付江とあり、竹の字ではないので変
える必要はなかったと思われるが、御用絵師は旗本待遇であっ
たので気を遣ったのであろう。

残念ながら竹千代は翌年逝去し老中から町奉行ら宛に鳴物高
声御停止に御触が廻っている。奇遇というか私の手元に縁のあ
るものが集まったのである。しかし掛軸はあまり安かったので
その真贋のほどは定かではない。

公儀触書之写

分厚い帳面で吊るし紐がついている。表紙は擦れて文字が読
めない。文化十年頃の公儀触書之写と題された項目が多い。日
付順に書き込まれている。幕府の執務で実際に使用されていた
ものと思われる。村役人など受け側の控えは多いが、これは発
信側のものであり、あまり見かけない。



竹千代様御誕生之
御目付江

竹千代様御誕生之
御目付江
竹千代様御誕生之
御目付江

十月(文化十年)

御目付江

今度御

公儀御誕生之

若君様奉称

竹千代様と候ニ付、御家中之面々、竹之字
附候名、早々相改候様、可被致候、尤苗字之
義ハ被致候ニ不及候、尤組下支配下有之面々
ハ其頭より可被下候、件之趣可被相達候

翌年の宮参り延期の通達である。宮参りの御用を任せられた松平伊豆守へ使いの者を通じて渡された手紙である。「弥以万端相慎火之本等念入可被申候」とは竹千代の病氣のことが他に漏れないよう注意を呼びかけているのである。

松平伊豆守様
御目付江
竹千代様御誕生之
御目付江

松平伊豆守様江、

御城使被召呼

竹千代様御宮参当年は御延引、来年之
御沙汰ニ有之旨、以御書付被仰達候段、申来候旨
可被其旨存候、右之趣は、弥以万端相慎火之本等
念入可被申候、尤末々ニ至迄組頭支配頭より夫々
可被申付候

八月十八日(文化十一年)

その翌月には竹千代の逝去の触書が出された。これは老中から各奉行所へ伝え、さらに村民、寺院へ鳴物高声御停止を伝えたものである。「停止」は意味は今と同じだが「ちようじ」と読ませる。

公儀触書之写(三)

只今江戶表四日輕刻廻し御飛脚至着
竹千代様御無例御養生不被為叶、先月
廿六日御逝去被遊候、依之今四日方来十三日
迄、鳴物高声御停止、普請談事八来る
八日迄御停止二候
件之趣、町郷中江可相触候、以上
九月四日(文化十一年)

老中

町奉行衆
筋奉行衆
同 加役衆
右之通、相触候様御家老中御申渡二付、
相触候条奉承知、急渡相愼可被申候
尤村方二有之、寺院江も不洩様相達可申
者也

只今從江戸表四日輕刻廻し御飛脚至着
竹千代様御無例御養生不被為叶、先月
廿六日御逝去被遊候、依之今四日方来十三日
迄、鳴物高声御停止、普請談事八来る
八日迄御停止二候
件之趣、町郷中江可相触候、以上
九月四日(文化十一年)

町奉行衆
筋奉行衆
同 加役衆
右之通、相触候様御家老中御申渡二付、
相触候条奉承知、急渡相愼可被申候
尤村方二有之、寺院江も不洩様相達可申
者也

幕府による公儀触書は老中達によって立案され、將軍の決裁を得て内容によりそれぞれ寺社、町、勘定奉行、あるいは大目付、目付へ配布される。寺社、町奉行はそれぞれ管轄の寺社町へ、勘定奉行は各地の代官を経由して村の庄屋から村人へ、大目付は江戸留守居役を通して各所大名へ、目付は旗本など領を有しない武家一般へと役割が決められていた。初めの触れは目付宛であるので武家同様の城内関係者として御用絵師にも伝わったのであろう。二番目は個人の松平伊豆守宛で、三番目は江戸および地方の町村民が対象であるため町奉行、筋奉行（勘定奉行に相当するが幕府直轄領を関東筋・東海道筋・北国筋・畿内筋・中国筋・西国筋に区分した）、同加役へ伝えられた。ここでは寺院も対象となっている。

將軍家斉は寛政の改革の松平定信のあとに幕政を親裁することになる。天保八（一八三七）年に將軍職を家慶にゆずるが、その後も大御所として実権を握っていた。亡くなったのは天保十二（一八四一）年で、幕政親裁から死ぬまでの四十八年間を大御所時代と呼んでいる。文化、文政期を主とする時期で、不健康で快樂主義的だが、見せかけの泰平のなかで、大江戸は絢爛たる繁栄をきわめ、美術芸術も大いに花開いた時代であった。